

うちねしゅつどひん
「内畝出土品」

町指定有形文化財（考古資料）

所在地：大字南条 所有者：個人 指定：昭和 55 年 10 月 15 日

明治 2 年（1869）、現所有者の曾祖父が、現在の金井社宮神地籍で桑園造成にあたり、天地返しを行った際 60 cm 下の土中に平らな板石があり、これを取り除いたところ壺が出土し、中には金の小粒が上方に詰まっており、その下方に鏡 3 面と永楽通宝銭がありました。（壺はその後破碎し失った）

- | | |
|--------------------|---------|
| 1. 亀座鈕菊花五区双雀文鏡（銅鏡） | 1 面 |
| 2. 菊花散双雀文鏡（銅鏡） | 1 面 |
| 3. 菊花地双雀文鏡（銅鏡） | 1 面 |
| 4. 永楽銭 | 336 枚 |
| 5. 金粒 | 1 粒（現在） |

永楽銭は中国の明代・永楽 6 年（1408）はじめて鑄造した銅銭で、寛正 5 年（1464）頃から日本にも輸入され、広く流通しました。この銅銭は手ずれがなく、他の銭貨を混じえず埋納されていて、金粒の共出とともに、地方では大変珍しいものです。

